

The Council of College English Teachers

全国高等専門学校英語教育学会

第33回研究大会プログラム

主催： 全国高等専門学校英語教育学会（COCET）
 期日： 平成21年9月11日（金）～13日（日）
 会場： 京都府中小企業会館
 〒615-0042 京都市右京区西院東中水町17番地
 TEL.075(314)7171 FAX.075(322)3770
 参加費：COCET 会員は無料（非会員 2,000 円）

1. 日程

◆ 第1日 9月11日(金) 15:00～17:00 理事会

◆ 第2日 9月12日(土)

10:30 ∪ 12:00	11:30 ∪	13:00 ∪ 13:45	13:50 ∪ 14:10	14:15 ∪ 17:40			18:00 ∪			
情報交換会	受 付	総 会	写 真 撮 影	研究発表 I						懇 親 会
				[1]	[4]	[7]	[10]	[16]		
①				[2]	[5]	[8]	[11]	[14]	[17]	
②				[3]	[6]	[9]	[12]	[15]	[18]	

◆ 第3日 9月13日(日)

9:30 ∪ 10:35	10:45 ∪ 12:00		12:00 ∪ 13:15	13:15 ∪ 14:45			14:45 ∪
研究発表 II		特別講演	昼休み	フォーラム			閉 会 挨拶
[19]	[22]						
[20]	[23]						
[21]	[24]						

2. 特別講演

- ・講師：田尻 悟郎 先生（関西大学外国語学部教授）
- ・演題：学生の意欲を引き出す授業作りの視点

2. 1 情報交換会

	804号室	806号室
10:30~12:00	司 会: 森岡 隆(和歌山高専) 青山晶子(富山高専) テーマ: 検定試験、業者テスト対策、補習授業、etc.	司 会: 中井大造(米子高専) 森 和憲(詫間電波高専) テーマ: 効率的なテスト作成、評価、etc.

(情報交換会のテーマは固定ではありません。司会者あるいは参加者がその場で提案される場合もあります)

3. 研究発表 I

	710号室	804号室	806号室
14:15~14:45		[2] <u>宮本友紀(福井)</u> 高専生の英語学習における言語不安(language anxiety)についての予備調査 司会: 神谷昌明 (豊田)	[3] <u>上杉 鉛一, 仲岡 俊祐(広島商船)</u> 出題方法の違いによる英単語定着度の調査 —よりよい単語学習支援システムの構築を目指して— 司会: 能登路純子 (沼津)
14:50~15:20	[1] <u>西山 正秋(神戸市立)</u> 英文の黙読時と音読時における眼球運動の測定方法と分析 司会: 穴井孝義 (大分)	[5] <u>永井 誠(東京都立)</u> 関係詞節の習得困難性順序を決定する要因について 司会: 神谷昌明 (豊田)	[6] <u>小野 真嗣(苫小牧)</u> COCET3300 における英語語彙表としての語彙情報に関する一考察 —テキスト処理による他の語彙表との比較分析から— 司会: 能登路純子 (沼津)
15:25~15:55	[4] <u>荒木 陽子, 福光優一郎(新居浜)</u> WEB 英語学習教材を活用した低学年自学自習—実践、結果、そして今後の課題 司会: 穴井孝義 (大分)	[8] <u>吉留文男(大島商船)</u> 接続語を用いた読解指導の効果 司会: 神谷昌明 (豊田)	[9] <u>土田 泰子(長岡)</u> 英単語学習ソフトウェア開発による学科連携的教育プログラムの試み 司会: 荒木英彦 (木更津)
16:00~16:30	[7] <u>田村 聡子(釧路)</u> 英文法の基礎力低下と英語嫌いの原因を探る—新入生アンケートと英語診断テストから分析させる要因 司会: 南 優次 (宇部)	[11] <u>鈴木基伸, 二宮治男(豊田)</u> 中学校と高専をつなぐ英語教育のあり方 司会: 崎山 強 (都城)	[12] <u>奥山慶洋 他(茨城)</u> 高専生の英語発信能力向上を目指した英語専門用語データベース構築に関する研究・・・学生・教員のニーズ分析を中心に 司会: 荒木英彦 (木更津)
16:35~17:05	[10] <u>岩崎洋一・瀬川直美(木更津)</u> 木更津高専における英文法指導の取り組み 司会: 南 優次 (宇部)	[14] <u>藤井数馬(沼津)</u> コアを意識させた授業実践からの示唆—「認知的教育実践」への言及も含めて— 司会: 奥崎真理子 (函館)	[15] <u>久保田佳克(仙台電波)</u> 海外長期インターンシップの実施とその評価 司会: 西野達雄 (大阪府立)
17:10~17:40	[16] <u>種村俊介(沼津)</u> 英語多読の実践と英語多読が学習者の語彙サイズに及ぼした影響について 司会: 竹田恒美 (東京)	[17] <u>大谷浩(北九州)</u> RoboCup --- Its Possible Spin-off Effects on English Education at Colleges of Technology 司会: 奥崎真理子 (函館)	[18] <u>石川希美, 松田奏保(苫小牧)</u> 苫小牧高専における海外研修プログラムの構築 司会: 西野達雄 (大阪府立)

4. 研究発表 I の発表要旨

-
- [1] 英語学習者の英文読解過程をオンラインで調べる方法の一つに、眼球運動の測定がある。眼球運動の測定法には、接触型（ヘッドマウント方式）と非接触型（ビデオカメラ方式）がある。しかしどちらの方式でも、従来は、音読時の眼球運動測定は非常に難しかった。本発表では、音読時の眼球運動を、できるだけ被験者に負担をかけず正確に測定するハードとソフトについて述べる。また、黙読時と音読時の眼球運動の比較・分析をおこない、考察を加える。
-
- [2] この発表では高専生が英語の使用に対して抱く不安（**language anxiety**）と英語学習の関係について考察する。調査用紙および統計処理を用いて、学年、学科、また実際の英語の成績などにより言語不安の程度に違いがあるのかということ、英語の成績と言語不安の間には何らかの相関関係がみられるのかなどを分析し、その示唆するものについて考えたい。
-
- [3] 英語力向上のために英単語学習支援システムを開発するさいに、どのような出題方式が効果的かを探るために、以下の3方式で出題し、その効果検証を行う。
- 1)単純ランダム型：単語を単純にランダムで出題する
 - 2)過去復習型：単語の正答率が一定値を超えるまでやり直しをさせる
 - 3)正答率型：単語の正答率により出題頻度を変える
-
- [4] 授業時間数に限りのある工業高等専門学校での英語教育において、学生に自学自習の習慣を定着させることは重要な課題である。そこで新居浜工業高等専門学校では、昨年度から低学年にもTOEIC対策インターネット教材ALC NET ACADEMY2を用いた自習を促している。本報告では、これまでの実践を再検討し、更なる教材の利用率の向上、そして学力の向上を目指して、これまでの取り組みについて学生の側、教員の側、そして教材面の問題点を明らかにする。
-
- [5] 関係代名詞の様々な用法（[主格修飾節が文全体の主語] や [目的格修飾節が文全体の主語] など）に関して、一定の習得困難性順序が報告されている。本研究は、これに 関係副詞のいくつかの用法を対象に加えて調査を行い、関係詞全般に関する習得困難性決定の要因を探る。また、それに対する有効な対処法を検討する。
-
- [6] 本発表では、テキスト処理による他の既存語彙表との比較分析により、COCET3300 が有する語彙情報としての特徴を述べることにしたい。COCET3300 に関する評価が様々な研究で行われているが、学習の内容や方法に焦点をおくものが多い中、収録されている語彙データの分析に関する研究は未だ数少ない。本発表を通して、あらゆる角度からのCOCET3300 の利用改善及び促進、高専英語教育への情報提供となれば幸いである。
-
- [7] 学生の英語の基礎力低下は全国的に見られる現象であるが、年々下がる〔釧路〕高専生の英語力の低下には大きな危惧を感じざるを得ない。これまで英語ができないのは英語が嫌いだからという議論はいくつも遭遇してきたが、では何故文法が嫌いなのか、また英文法の何がわからないのかまで深く追求したものはあまりないように思われる。本稿では2009年度新入生に対して実施した英語に対する意識調査アンケートと中学で学んだはずの基礎英文法の診断テストの結果から得られたデータを基に「なぜ英文法が嫌いなのか」「なぜ英語の基礎力が低下しているのか」を検証したい。
-
- [8] 読解指導方法の一つとして、テキストの「一貫性」に注目し、読解に影響を与えると想定される接続語を用いた指導を行い、その効果を調査した。実験では、高専2年生を対象に、4種類の接続語のタスクを明示的に指導した実験群、指導なしの統制群に分け、事後読解テストを実施した。その結果、全体としては大きな変化はなかったが、下位群に有意差が認められた。
-
- [9] 一般教育科目と専門科目の連携的な実践プログラム例として、学生による英単語学習ソフトウェアの開発に関する事例を紹介する。プログラミングのレベルを段階的に進めることで、一旦入力した英単語データを資源として活用しながらパフォーマンスやインタフェースを改良する取組は、英語の語彙に関する知識だけでなく、より学際的で発展的な内容を含んでおり、学科連携のカリキュラムの構築のためのモデルケースの一つとなる。
-
- [10] 木更津高専では平成18年3月にカリキュラム改訂を行い、平成18年度以降の入学者に対して、年次進行で新カリキュラムを適用している。英語科目では1、2年生を対象とした「英文法 I・II」を新設し、科目の新設と併せて、新入生の入学時の英文法習得状況を調査するために英文法テストの実施を始めた。本発表では、本校で過去に実施された英文法テストの結果から見える新入生の現状およびこれまでの授業実践例について報告する。
-

[11] 中学校を卒業して高専に入学した学生を、いかにして「ソフト・ランディング」させるかは重要な問題である。本研究では、「中高（中学高専）」に関連性を持たせる英語教育とはどのようにあるべきかという「問い」に対する「解答」を、中学校の英語担当との共同研究を通して探る。共同研究は、(1)中学校3年生の英語授業教材の共同開発、(2)中学校・高専の英語授業参観、の2本の柱から成る。本発表は、本年4月から8月までの実践研究の中間報告である。

[12] 高専における英語教育の問題点の1つとして、専門教育との連携があげられる。本研究は、その問題を解決する方法の一つとして、英語教員と専門教員との連携による専門分野に特化した英語語彙データベースの構築と、それに基づいた英語授業を提案する研究の一部である。今回の発表では、学生および専門教員に対するアンケートを基にニーズ分析を行い、学生に身につけさせたい、あるいは学生が身につけたい英語力とはどのようなものかを明らかにしたい。

[13] 発表取消

[14] 本発表は、私の勤務校の2年生に対して行った、動詞の後に続くかたちが不定詞か動名詞かという文法分野に対する説明の仕方を変えた場合、確認問題として的小テストを通して、両者の結果に差が出たかどうかを考察したものである。説明の仕方としては、一つの集団に対しては、動詞の後に続くかたちが不定詞の場合と動名詞の場合の意味上の共通項（コア）を意識させ、もう一つの集団には、そのような意味上のコアを意識させず、あくまで学校文法に基づき形式的な観点から説明をした場合の、教授の仕方の差によってその結果や定着に差が生じるかを実験した結果を示し、そこからいくつかの可能性や課題の考察を試みる目的のものである。

[15] 仙台電波高専では2007（平成19）年度より、海外提携校との学術交流協定にもとづいた海外長期インターンシップ（約4ヶ月）に学生を派遣している。2007年度は2名、2008年度は10名がこの制度を利用して、5年生の後期を海外の大学で過ごした。この経験を通して、学生たちは英語力向上の意欲を高めているが、いくつかの課題も見えてきた。本発表では、学生たちの声を紹介しながら、プログラムの報告をする。

[16] 昨年度、高専1年生を対象に、授業中の10分間を利用して、英語の多読活動を約8カ月間に渡って継続的に実施した。本発表では、その実践内容の報告と実践後に学習者を対象に行った実践に関するアンケート調査の結果を紹介する。それに加えて、英語力の内、特に学習者の受容語彙サイズに焦点を当て、授業内における10分間英語多読が学習者の受容語彙サイズに与えた影響についても検討したい。

[17] Have you ever heard of RoboCup, not RoboCon? While the Robot Contest (or RoboCon) is a lot better-known domestically, RoboCup is far more widely acknowledged internationally. The RoboCup community meets to hold international competitions every year, where of course the medium of communication is English. In this presentation, I will provide an overall picture of what RoboCup is and how our school has been involved in this international initiative in robotics. Most importantly, I will discuss its possible impact on English education at colleges of technology, and even on the direction Japanese Kosens should go in the future.

[18] 苫小牧高専では、ニュージーランドのポリテク（Eastern Institute of Technology, Hawke's Bay (EIT)）と海外提携を結び、これまで学生・教職員を派遣してきている。平成19年度、20年度には文科省のプログラムに採択されて、国際社会に通用する技術者の育成を目指した「高専生にふさわしい海外研修プログラム」に取り組んできた。その2年間の実践を主に述べながら、高専の特色を活かした海外研修、国際化事業と英語教員の関わり、今後の課題や可能性の3点について考察していく。

5. 研究発表Ⅱ

	801号室	804号室	806号室
9:30~10:00	[19] 森 和憲(詫間電波) もの作りを利用した英会話授業 司会：中井大造 (米子)	[20] Eric Rambo(津山) Processing models of language learning and the development of classroom activities 司会：青山晶子 (富山)	[21] 飯尾高明 他(都城) 都城高専に於ける新入生の英語教育 司会：小野真嗣 (苫小牧)
10:05~10:35	[22] 宇ノ木寛文 他(八代) 高専専攻科におけるTOEIC短期集中指導の試みー八代高専サマーレクチャー報告ー 司会：森 和憲 (詫間電波)	[23] 能登路純子, 塩谷三徳(沼津) B.A.C.E.を用いた入試形態別の英語力についての考察 司会：森岡 隆 (和歌山)	[24] Todd Cooper(富山) Teaching Business to Younger Students 司会：小野真嗣 (苫小牧)

6. 研究発表Ⅱの発表要旨

[19] 発表者は、高専生が将来遭遇すると予測される「ものづくり環境」で英語を使う状況をシュミレーションした授業ができないかと考え、その一つの答えとして、LEGO ブロックのロボットを英語で共同制作する活動を考えた。本研究発表では授業の組み立て方や指導方法を議論し、学生の発話記録、アンケート調査の分析結果を通し、当授業が学習者のモチベーションに与える影響について発表する。

[20] According to Skehan (1998), language learning as a young adult can be“viewed as an example of the human-information processing system at work.”From this perspective, kosen students can best be helped to learn English by providing teaching materials and methods that improve their English“processing abilities”. That is to say, methods that help students speed up and improve their English comprehension and production, so that they may develop automaticity, as well as to grammaticalize their output (McLaughlin 1990, Gass 1997). This presentation shows a series of English teaching materials that are meant to achieve these ends. The methods, which include writing, dictation, internet, and self evaluation activities, will be explained and critiqued from a cognitive learning perspective. Additionally, results from student surveys about the methods will be discussed.

[21] 都城高専では、英語が嫌いという学生のモチベーションを高めるために、様々の試みを行ってみた。少人数教育もその一例である。しかし、そこにはいくつかの問題点も浮上してきたことに気付く。更に、自学自習用として与えた CD 付き教材の使用環境等、我々教員側が気付かない難しい問題にぶつかることになった。新入生をとりまく環境もかなり変化してきている。これら難しい問題への一考察を試みる。

[22] 八代高専では平成17年に、九州地区高専専攻科生を対象に1週間の日程で、短期間でのTOEIC得点アップを目指した集中講座(サマーレクチャー)を実施した。今平成21年夏、再び同種のサマーレクチャーの実施を拝命するにあたり、より効果的な短期集中講座の実現を目指し現在スタッフ一同準備にあたっている。本発表では前回の講座との比較を含めて、実施したての講座の実践報告を行い、専攻科におけるTOEIC短期集中講座の可能性についてご意見を伺うことができればと思っている。

[23] 平成20年度入学者について、推薦受験であるか一般受験であるかにより、学生を学科ごとに2つの集団にわけ、入学直後の英語運用能力試験(B.A.C.E.)の結果を調査した。推薦受験の場合は、中学時の英語の評価とB.A.C.E.との相関、一般受験の場合は、学力検査の点数とB.A.C.E.の得点、中学時の英語の評価との相関を調べた。調査結果により沼津高専に入学する学生の現状を把握し、英語を教える際に留意しなければならないことがあるかどうかを探った。

[24] With global business comes the necessity for a global language, giving rise to the prominence of Business English within the TEFL/TESOL field. Business English Books, courses and tests flood the educational market. But most, if not all, these resources have been designed for use in companies and/or universities. TNCMT is quite unique, in that Business English courses are offered at the 3rd grade high school level. This report focuses on educational materials and methods which can help educators teach necessary vocabulary and business/financial concepts in a way enjoyable to the younger learner. Ideas used and tested in the classroom will be presented, along with the results of student surveys.

7. フォーラム・意見交換会

昨年度に引き続き、フリーディスカッション形式でのディスカッションや情報交換を行います。1日目の午前に行われる情報交換会で、特に大きな話題になったことなどがあれば、それを取り上げてより深い討議をするなど、活発な議論になることを期待しています。